

なかいせき 16 中遺跡

所在地：敦賀市中

調査原因：事務所建設

調査期間：令和4年4月

調査主体：敦賀市教育委員会 日本海航測(株)

調査面積：957 m²

時代：弥生時代後期～古墳時代初頭



位置図 (S=1/50,000)

調査の概要 中遺跡は敦賀市東部の木ノ芽川扇状地上に位置する遺跡です。これまで数度にわたって調査が行われ、弥生時代後期から平安時代の遺物が見つかったものの、明確な遺構は確認されていません。今回は、事務所建設に伴い本発掘調査を行いました。調査の結果、弥生時代後期から古墳時代初頭の自然河川の痕跡とそこに投棄された多数の土器などが見つかりました。

主な遺構 調査区の西側は後世の河川の浸食によって大きく削平されていましたが、東側では自然河川 (SR01) と性格不明の浅い落ち込み (SX01) の2つの遺構を検出しました。SR01 は北から南に流れる木ノ芽川の旧流路で、弥生時代後期から終末期にかけての土器や石器が出土しました。SX01 も木ノ芽川の流れが形成した浅い窪地に土器が多量に捨てられたとみられる土器溜まり遺構で、弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての土器が出土しました。いずれの遺構も高環や器台といった供膳用の器が多くみられることから、付近で川辺の祭祀を行っていた可能性も考えられます。

主な遺物 今回の調査では多数の土器が出土しましたが、その内容を見ると、丹後系の装飾器台や近江系の受口状口縁甕、北陸系の擬凹線を持つ甕など周辺のさまざまな地域の影響を受けています。このような状況は周辺に位置する吉河遺跡 (弥生時代中期～後期) や大町田遺跡 (古墳時代初頭) でも確認されており、交通の要所である敦賀の地域的特徴といえます。

そのほか、SR01 では砥石と磨石が近接して見つかり、セットで所有・使用されていたものの可能性があります。また、包含層からは古墳時代中期ごろの須恵器も見つ

かっています。

まとめ 今回発見した遺構や遺物から、調査区付近には弥生時代後期から古墳時代初頭にかけて木ノ芽川の旧流路が流れ込んでおり、人々がその周辺で祭祀などの活動をしていたということが想像されます。これまで多数遺物が出土しながらはっきりとした遺構が見えなかった“謎の”遺跡である中遺跡の様相の一部を垣間見ることができたといえるでしょう。 (奥村 香子)



中遺跡完掘状況